

## 未包 伸吾



専門とする分野：

建築意匠

所属：

関西大学 環境都市工学部 建築学科

経歴：

1986年 神戸大学 卒業

1989年 ワシントン大学 修了

1990年 神戸大学大学院 修了

1990-94年

鹿島建設 建築設計本部

1994-2009年

神戸大学助手 助教授 准教授

2009年 関西大学 教授

## 団地再編のイメージ

### 1) 阪神淡路大震災での経験を活かす：

右図は筆者が神戸大学在職中、安田丑作教授・三輪康一助教授(当時)と共同で震災復興のモデルとして提案したものである。本モデルでは一般的な市街地を対象としているため、戸建住宅等も含まれるが、その再建モデルは、団地再生への視座を提供するものとする。すなわち、まず、街区単位において事業レベルと計画・規制レベルが一体となるべきである。そして、本事業による再生が、街区環境の改善はもちろん、街区を超えた、より広域のまちづくりレベルの計画につながるような計画手法(事業型、誘導型)を前提として策定されねばならない。従って、その計画を担保する仕組みが必要であり、例えば、一定の単位での地区計画あるいは制度的に担保される街区協定なども考えられよう。

### 2) 戸建と集合住宅の「間」：

1) で述べたことは、今回の研究メンバーにはすでに共有されているものであり、その具体的な実現方策が様々な検討・提案がなされるものとする。そうした検討・提案に資するような視座を提供してくれるのが、まずは、アメリカ西海岸の近代建築を先導した建築家ルドルフ・シンドラーやリチャード・ノイトラが設計した集合住宅である。

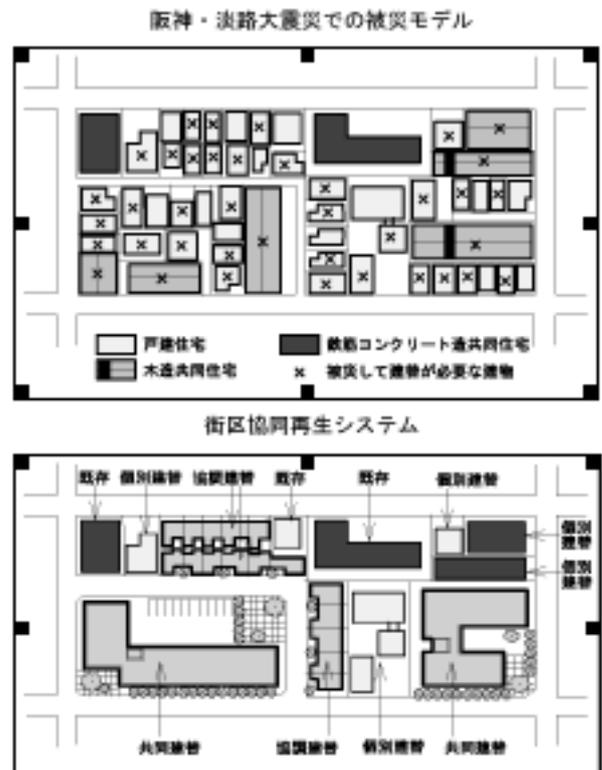
一般に彼らの作品は戸建て住宅を持って代表され評価されるが、彼らの設計した集合住宅は、斜面地という「地勢」に応じ、その性質は、戸建てと集合住宅の文字通り「間」を狙ったものでもある。これらの作品群の空間構成等の分析から、団地再生への視座の一端を得たいと考える。さらに、オランダの現代建築家ヘルマン・ヘルツベルガーら、いわゆるオランダ構造主義の建築家たちは「生きられた空間」の創出に意を払った作品群を創出してきた。これも「間」を作り出す考え方といえよう。

3) 特に、本研究課題では1)での経験をふまえ、2)のアメリカ西海岸の近代建築集合住宅およびオランダの現代建築家の作品群の分析から、

①コミュニティの形成と維持

②個々の家への愛着が持てる「戸建て」の感覚と、共同への参画が誘発される「集合住宅」の間の創出

③それとともに「地勢」を重んじた「生きられた空間や風景」の創出への検討を重ねる必要があると思っている。



## 団地再編に関する知見

### ■著書

- ・都市と建築のパブリック・スペース, 共著, 森島清太, 末包伸吾ほか, 鹿島出版会, 担当部分: pp.30-65, 150-169, 174-199 および全体統括(翻訳), 平成7年4月
- ・阪神・淡路大震災調査報告建築編-10 都市計画・農村計画, 共著, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか, 日本建築学会, 担当部分: pp.78-81, 116-118, 120-122, 354-358, 374-78, 平成11年12月
- ・21世紀の都市空間像とアーバンデザイン, 共著, 日本建築学会, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか, 担当部分: pp.44-49, 128-129, 138-143, 全体編集, 平成13年9月
- ・まちづくりの宙と波, 共著, こうべまちづくりセンター, 宙, vol.4, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか10名, 担当部分: pp.129-150, 平成20年5月

### ■査読付き論文

- ・人口減少時代における土地利用計画の運用と展望, 共著, 日本建築学会, 三輪康一, 末包伸吾, 栗山尚子ほか, 担当部分: pp.77-80, 平成20年9月
- ・郊外住宅団地における人口・世帯変動特性と住宅更新に関する研究—神戸市の郊外住宅団地における高齢化の進展と戸建住宅地の更新の分析を通じて—, 共著, 日本都市計画学会学術研究論文集, no.31, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾, pp.463-468, 平成8年11月
- ・A Study on the Process and the Factors of Realization of the Joint Housing Projects in the Great Hanshin-Awaji Earthquake Disaster Afflicted Urban Area, 共著(筆頭), Proc. of International Symposium on City Planning 2000, C.YASUDA, K.MIWA, S.SUEKANE, pp.49-56, 平成12年7月
- ・密集住宅市街地整備における小規模組合施行土地区画整理事業の有効性に関する研究—神戸市神前2丁目北地区における事例研究を通して—, 共著, 日本建築学会住宅系研究論文報告会論文集1, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか, pp.317-324, 平成18年12月
- ・密集市街地における協調的環境改善手法とその評価に関する研究—神戸市における接道不良区域の事例分析を通じて—, 共著, 日本都市計画学会都市計画論文集, No.42-1, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか, pp.87-92, 平成19年4月
- ・密集市街地における個別改善型住環境整備とその評価に関する研究—神戸市長田区駒ヶ林地区における事例調査を通じて—, 共著(筆頭), 日本建築学会住宅系研究論文報告会論文集2, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか, pp.215-224, 平成19年12月
- ・密集市街地整備における共同建替の事業実効性に関する研究—神戸市新開地地区および水道筋地区における事例調査を通じて—, 共著, 日本建築学会住宅系研究論文報告会論文集2, 安田丑作, 三輪康一, 末包伸吾ほか, pp.293-300, 平成19年12月
- ・まちづくりにおける地域空間像の表現形式の類型と住民評価—兵庫県における事例的研究—, 共著, 日本建築学会技術報告集, 三輪康一, 安田丑作, 末包伸吾ほか, vol.16, No.32, pp.291-296, 平成22年2月

## 2011年1月以降の業績(発表論文・著書など)

### ■著書

- ・大きな自然に呼応する建築, 共著, 伊東豊雄, 末包伸吾ほか, 日本建築学会, 担当部分: pp.12-13, 34-35, 46-47, 平成23年3月

### ■論文(査読付き)

- ・広瀬鎌二の鉄骨造独立住宅作品「SHシリーズ」の空間構成と架構形式に関する研究, 単著, 末包伸吾, 意匠学会, 『デザイン理論』, vol.59, 平成24年3月
- ・論考の主題と構成にみるルドルフ・シンドラーの空間構成の方針と手法, 単著, 末包伸吾, 日本建築学会, 『日本建築学会計画系論文集』, Vol.77, No.673, 平成24年3月

### ■口頭発表

- ・平成23年度日本建築学会近畿支部研究報告会, 共著, 9編, 平成23年6月
- ・アンチ・メトロポリスの建築: 大地(招待講演), 単著, 第4回レクチャー建築の20世紀連続講演会, 設計工房 CASA, 平成23年8月
- ・尼崎市の都市美形成: これまでとこれから(招待講演), 単著, 第8回まちかどチャタリング賞記念講演, 平成24年2月
- ・建築のポストモダン(招待講演), 単著, 第6回レクチャー建築の20世紀連続講演会, 設計工房 CASA, 平成23年12月
- ・レクチャー建築の20世紀総括編(招待講演), 共著, 第7回レクチャー建築の20世紀連続講演会, 設計工房 CASA, 平成23年1月
- ・ルドルフ・シンドラーによる集合住宅における規格化と個別性の融合(招待講演), 単著, 戦略的研究基盤形成支援事業(関西大学), 講演会, 平成24年5月

### ■調査報告・総説・解説等

- ・空間への愛着のために: つくるからつかうへ, 単著, 葦, vol.148, 平成23年4月
- ・推薦の言葉, 単著, 近代建築, 卒業制作2011, p.195, 平成23年6月
- ・尼崎市都市美形成計画, 共著, 末包伸吾他5名, 尼崎市, 2012, 平成23年11月
- ・尼崎市第8回まちかどチャタリング賞講評, 単著, 尼崎市, 平成24年2月
- ・集合住宅“団地”の再編手法に関する技術開発研究, 共著, 江川直樹ほか16名, 技苑, No.134, pp.51-62, 2012, 平成24年3月
- ・建築・都市デザイン国際ワークショップに参加して, 共著(筆頭), 末包伸吾ほか3名, 理工学会会報, no.127, pp.44-46, 2012, 平成24年3月
- ・規格化と個別化の融合—RMシンドラーの集合住宅, 単著, 平成24年6月

### ■作品

- ・小野原の家, 末包伸吾, 山崎康弘, 平成23年6月
- ・牧野の家, 末包伸吾, 山崎康弘, 枚方市, 平成23年8月
- ・阪急芦屋川駅北側広場トイレおよび景観形成デザイン, 末包伸吾, 山崎康弘, 芦屋市, 平成24年2月
- ・桜通りの家, 末包伸吾, 山崎康弘, 平成24年6月

## 『関西大学 戦略的研究基盤 団地再編 プロフィールシート』

執筆: 末包伸吾

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度~平成27年度)」によって作成された。

## 関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号  
先端科学技術推進機4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)

URL : <http://ksdp.jimdo.com/>